

第 44 回会議録関連参考資料（ 審議会終了後に担当部署に確認し、委員に報告した事項 ）

【中東委員】（会議録 12 ページ参照）

「平日において家事・育児に費やす時間が 30 分を超える市民の割合」の数字だが、調査対象が 20 歳から 40 歳代男性というのは、最高で 49 歳となる。49 歳の男性なら子どもが高校生ぐらいだし、その子を対象に 30 分を超える「育児」というのは、どんなものか。

この設問は、30 歳代までを対象にしたほうがいいのではないか。

本指標は、本市男女共同参画基本計画の成果指標として、現状として低い状況にある「育児に携わっている男性の割合」を高めていくことを趣旨として設定しています。

指標の設定にあたっては、40 代後半の男性でも若い子どもを育児している場合があるなど様々な家族状況を踏まえて「20～40 歳代男性」の育児の従事状況を調査することとし、男女共同参画審議会への諮問や、パブリックコメントの実施など、広く意見を聞いて設定しております。

【矢倉委員】（会議録 13 ページ参照）

指摘のあった育児の数字は令和元年度と令和2年度で大きな変化がある。数字が大きく変わった理由は何か。

令和元年度の数値は、男女共同参画センターの指定管理者による調査研究事業としての調査の数値（市内男女各 2,000 人にアンケート発送、回答：男性 416 人、女性 567 人、無記入等 22 人）であり、令和2年度の数値は、本市で実施しているモニター調査（男女各 250 人のアンケート結果）の数値であり、調査手法の違いなどが数値の差としてあらわれたものではないかと考えております。

【三成委員】（会議録 13 ページ参照）

家事・育児というものの内容、誰のために行うかものなのかという点によっても違うと思う。自分のことなら長くやるだろうし、30 分ということで区切って問う合理性はあるのだろうか。

委員ご指摘のとおり、家事・育児の時間が長ければよいというわけではなく、本指標では、現状として低い状況にある「育児に携わっている男性の割合」を高めていくことを趣旨としております。

調査設問では1日の育児従事時間を聞いていますが、平均時間を高めていくことを指標とするのではなく、男女共同参画審議会にも諮ったうえで、30 分以上の時間を回答した人を「育児に携わっている男性」として、その割合を高めていくこととしております。